

市民から見た印旛沼

美 島 康 男

NPO 法人 印旛野菜いかだの会理事長

【講演要旨】

印旛沼は、市民の憩いの場として、市民の親しめる大切な水辺を提供している。

新田開発される昭和 36 年以前の印旛沼は、多くの浅瀬があって、水生生物の育む自然環境が浄化機能を発揮していた。しかし、この新田開発事業によって、60%ほどの浅瀬は失われ、水生植物・二枚貝（マシジミ・カラス貝・イシ貝）等、生き物による浄化機能（生物浄化システム）は低下してしまった。現在の印旛沼は、大型の貯水池化となり、近年は、流域の都市化と共に汚染汚濁に犯され、上水水源として、全国ワーストワンの印旛沼は、毎年夏場になると毒性の強いアオコ（藍藻類—植物プランクトン）の異常発生で生態系は破壊され、多くの水生生物は絶滅の危機に立たされている。

循環型社会を目指す「みどりの変革」の趣旨どおり、「とりもどそう！ふるさとの自然」環境づくりとして、印旛沼を再生してゆくことを目指して、心を共にする市民が集まり、平成 12 年 5 月に「印旛野菜いかだの会」を設立した。21 世紀に求められている環境に優しい生き物を使い、環境生態工学（バイオエコエンジニアリング）の手法を用いて、植物・二枚貝で水質浄化に取り組んで 8 年目、野菜いかだの水辺では多くの魚類の姿

が観察され、印旛沼では絶滅した沈水植物（マツ藻・エビ藻）が繁殖し、水生生物を育む水環境の効果が現れてきた。

環境生態工学（バイオエコエンジニアリングの手法）

I 空芯菜・ハーブ（いかだで水耕栽培）による効果

空芯菜・ハーブの水耕栽培によって富栄養化の原因の窒素・リンの吸収力を発揮して、アオコの発生を抑制し、魚類の好む動物プランクトン（ミジンコ類）を繁殖させ、溶存酸素をも供給し、水生動物の繁殖を促す。

II 二枚貝（マシジミ・池蝶貝）導入の効果

二枚貝（マシジミ・池蝶貝）は、濁りの原因の浮遊有機物質（微細粒子）を吸収し、透明度（透明度を高め、沼底に太陽光をとどかせて、光合成の働きで、水生植物・水生動物の繁殖を促す一助となり、自然浄化機能を回復させる。

III 水生植物の効果

水生植物は、水中に溶存酸素を供給して、窒素・リンをも吸収するとともに、水生動物生息の場を提供し、生き物の育む水環境を再生する効果がある。

印旛沼と周辺の水路に住む魚類

1. 記録された魚類 約 70 種
2. 近年記録された魚類 約 40 種 ただし生息数は少ない
3. 沼から消えて谷津田の水路に生息する貴重種
スナヤツメ・ホトケドジョウ・メダカ・サワガニなど 10 数種
4. 絶滅種 ゼニタナゴ・ムサシトミヨ・チョウセンブナ・など約 10 種
5. 外来魚 オオクチバス・ブルーギル・カムルチーなど約 10 種
6. 漁 業 現在活動している魚師は、約 20 人
モツゴ・タモロコ・テナガエビ・スジエビ（佃煮原料）
フナは釣堀に、コイの売れ行きは良くない。